

西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）に対していただいたご意見の概要と教育委員会の考え方

1 募集期間：令和5年5月25日（木）～ 令和5年6月23日（金）

2 提出件数：169件（53名）

3 主な意見とその対応

(1) 意見を反映したもの（8件）

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
P9	第2章 小中学校の学校規模の区分	計画案P9「同法第79条」とあるのは、「同施行規則」又は「同規則」の誤りでは？ 学校教育法第79条は、「寄附」についての記載です。	1	修正対応します。
P14 P35	第2章 現中学校区ごとの現状と今後の見込み、「年齢別小中学校区別年少人口推計表」、「年齢別小中学校区別一覧表」	計画案P14及びP35・P36 P14 令和18年に黒田庄中学校の生徒数が急増（前年比+10人）する予測の根拠を教えてください。他の中学校区では、生徒数が減少している中で、黒田庄中学校のみ増加しています。 P35 人口推計の各学校の割合の計算根拠を示してください。 各年の出生数から学級数を算定されていると思いますが、毎年附属小・中や私立の小中学校に通う児童・生徒もいると思います。これまでの統計資料により、今後の推計もできると思いますが、そのあたりは検討されていますか？	1	令和5年度以降の各校区の出生数は、年齢別小中学校区別年少人口推計より推計値で集計しています。各校区の人数については、第10回西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議で人口推計として使用した推計値より計算していますが、校区によって前年と差が出ている校区もあることから、各校区の推計について見直しを行います。 また、兵庫教育大学附属の小中学校や北はりま特別支援学校等に児童生徒が通っていますが、各年代各校区でばらつきがあり、推計には含めていません。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	第6章小中学校統合計画（1）西脇東中学校、黒田庄中学校の統合について文章表現に意図を感じます。 西脇東中学校の生徒数は、今後1学年20人台から10人台減少～<省略>～です。 黒田庄中学校の生徒数は、令和4（2022）年度から全学年2学級の維持が困難になり、～<省略>～想定されます。 この部分について、生徒数が学級数にすり替わっています。	1	生徒数と学級数について、一部文面の修正を行います。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	将来の子ども人口重心という考え方（令和9年度以降黒田庄中学校の方に近くなること）	1	人口重心については、令和9年度以降黒田庄中学校の方がより人口重心に近くなるため、文言の修正を行います。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	当初は人口重心地区に、より近い東中に決めると説明していましたが、その理由に間違いがあったのに、何故そのまま推し進められるのか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	生徒の人口重心は、統合される年の次年度以降は黒田庄中のほうが近くなるということが分かっており、理由にはなりません。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	人口重心に近い西脇東中学校を活用とのことでしたが、それは令和8年度に限ってで令和9年度以降は黒田庄中学校が人口重心に近くなるという補足がありましたが、それであれば「令和9年度以降は人口重心に近くなる黒田庄中学校を活用する」に修正するべきではないでしょうか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	当初の教育委員会からの説明にあった日照時間、人口重心は誤りまたは、理由になり得ない事項です。	1	人口重心については、令和9年度以降黒田庄中学校の方がより人口重心に近くなるため、文言の修正を行います。 また、日照時間については、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）には記載していません。

(2) 既に盛り込み済みのもの（5件）

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
-	全体	賛同します。 先日、桜丘小学校へ訪問しましたが、通学バスが必要だと思います。	1	通学については、原則として統合により通学する学校が変わる児童生徒を対象に、通学時間及び通学距離が適正範囲となるよう支援していきます。
-	全体	楠丘と桜丘は統合を見越して、一緒に遊ぶ日を企画するなど、親たちも努力され、生徒数の推移から教育として立ち行かなくなると理解しています。今後、授業や行事をどちらの中学校も使って合同で開催など、統合までの交流も期待したいです。 まだまだ課題は多いですが、それぞれの中学校の親御さんの心配を受け止めて、統合をすすめていただきたいと願っています。	1	小学校同士、中学校同士の交流も進める必要があり、統合の予定のある学校同士で交流等の計画を進めています。
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	P16 教科担任制の円滑な推進 小学校・中学校もそうですが、教科担任の先生の配置を行うには、小学校（1学年1学級）・中学校（1学年2学級）で足りるでしょうか？ 1学年1学級の学校と、1学年3学級の学校では配置される教員の数が異なるということをこれまで知りませんでした。実際に通学する人数によっては、早期に学級数が減少し、適正な教員配置行われないことにつながるのではないのでしょうか？ 教科ごとの教員を配置できる学校とそうではない学校が生じることで、同じ市内の学校に通っていながら、受けられる教育の質・量が異なるのではないかと危惧しています。 現在の教員の配置の状況、当該案による適正規模（小学校1学年1学級、中学校1学年2学級）を満たす場合と満たさない場合に分けて、今後の見通しを、市民に具体的に示して頂きたい。	1	中学校では、全ての学年が1学級になり、特別支援学級がない場合の教員の定数（教頭+教員）は8人となります。 全ての学年が2学級になったときに、教員の定数は10人となります。 全ての学年が1学級になると、教員の定数は教科数の10を超えませんが、兵庫県教育委員会からの教員の加配措置を受けることにより、全ての教科に教員を配置できています。
P20	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	P20 教科指導 教科数に応じた教員配置ができること。（中学校） ここまでの資料では、児童生徒数が減少する中で複式学級の解消や1学年複数クラスを維持するといった児童生徒数からのアプローチで、統合の必要性が述べられています。 教科数に応じた教員配置 基準はありますか？1学年2学級で教員配置が可能ですか？ 西脇市内の学校に通う児童・生徒が、同じように教育を受けられるように、教職員が配置できる学校規模を考えてください。	1	
P21	第5章 適正規模・適正配置	中学校の統合を対象とする「1学年1学級が想定される学校」とあるのは、学校単位で、5学級となる時点なのか3学級となる時点なのか教えてください。 1学年1学級の学年が生じることで、教科担任制を維持できなくなるのではないかと心配しています。	1	

(3) 反映困難なもの (13件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
-	全体	統廃合以外の他の選択肢は、計画検討段階で出たでしょうか。もしあればお教えてください。	1	西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議からの答申を基本としており、計画検討段階で統廃合以外の選択肢は特ありませんでした。
-	全体	地域コミュニティに関して 統廃合対象である双葉小学校については、学校存続を求める署名が3,527人提出されたかと思えます。 西脇市は2023年6月1日時点で人口38,412人ですが、総人口およそ40,000人として、小学校区8で割ると単純計算で校区あたりの人口が5,000人、総人口の10%近く、小学校区の半数を優に超える署名が集まったことは決して小さく扱うべきではありません。今後他の統廃合対象校においても、同様に存続を求める声が出る可能性は高いと思われます。 当然、統廃合を求める意見もあると思いますが、既にこれほど存続を求める声が多い状態で、統廃合を推進することは果たしてどれほど民意を反映していると言えるでしょうか。 ○署名に法的な効力がないことを差し引いた上で、地域の声としてどのように捉えているか、考えをお教えてください。 大規模校、都会的な教育を望む保護者・児童ばかりではないはずですが。 選択肢がない状態で、子育て世帯は実質的に統合後の小学校近くに居住する必要性に迫られ、統廃合予定の地域からは若い世代がいなくなります。 これがそう遠くない未来で地域の消滅に繋がりがねないことは想像に難しくなく、行政としても当然想定しているものと思います。 この事実に触れず、教育の未来についてだけ説明することは不誠実であるように思います。 ○統廃合対象地域において、地域コミュニティが一定失われる前提を伝えた上で、市の全体最適として計画を説明するべきではないでしょうか。 西脇市でも公聴会や今回のようにパブリックコメントは行われていますが、知る限りではアンケートは行われていません。 ○統廃合対象地域の住民、保護者、就学前世帯、子育てを予定している世帯に対して、適正化についてアンケートを実施するべきではないでしょうか。 ○本計画の必然性の一部に教員の負担軽減もあるのであれば、適正化について教員にもアンケートを実施してはいかがでしょうか。 地域コミュニティの意見を踏まえて、統廃合・小学校の在り方を見直す判断も全国で多数事例があります。 本計画は、ひいては西脇市のまちづくり、市の存続にも関わる重要な判断であると思います。 行政の論理ありきではなく、当事者である子どもたちや保護者のニーズ、地域の未来を踏まえた慎重な検討が行われることを期待します。	1	署名に関しては、3,527人の市内外の住民からいただいております。今後日本全体で人口が減少していく中、子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議で2年間協議し、答申をいただき、それを基本として西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を作成しました。 すでに複式学級となっている双葉小学校については、すぐにでも統合へ向けての協議を開始するべきという意見もありましたが、令和5年度に入学した児童が卒業する令和10年度までは存続し、令和11年度から比延小学校との統合を計画しています。
-	全体	私は、今回提示された「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)」に反対です。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。今後とも丁寧に進めていきます。
-	全体	今回「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)」を拝見すると、私の母校である桜丘小学校、黒田庄中学校がどちらも廃校になる計画とのこと。驚くとともに、非常に悲しく思いました。 子どもの「まなぶ力」「成長する力」は、自然環境にめぐまれ、地域の方々へのあたたかい見守りがあり、少人数でこそ先生の細やかな指導のもとで培われるものであると考えています 児童・生徒数の減少という理由で、桜丘小学校、黒田庄中学校をなくさないでください。 桜丘小学校、黒田庄中学校の廃校を含んだ、今回提示された「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)」に反対致します。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。なお、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統廃合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定です。 今後とも丁寧に進めていきます。
-	全体	合併案に反対です。 なぜなら合併後の子どもがどうなるかの細かいビジョンが何も示されていないからです。 大まかな政策だけでなく、そこに関係する人に納得してもらうには細かいケア(説明)が必要なのではないでしょうか？ 第10回の検討会議の会議録を見ましたが、「いきなり2拠点案にするとなった場合、後戻りはできないということもあるので、その辺りに緩衝材を置いておく必要があるのではないかと考えてます」と発言されています。 この発言から、黒田庄地区と比延地区の子どもたちは、2拠点にするまでの実験に使用すると言っているように思うのですが、そのような考えの下に、自分の子どもを利用されるのは全く承認できないし、もっと子ども達の事を考えて欲しいです。	1	
-	全体	「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)」に反対します。一方的な押し付け「学校統廃合」は許すことができません。 繰り返しますが統廃合は誰のためのものか。教育関係者だけの問題ではありません。「地域と共に学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論と生徒とその保護者、卒業生、教職員、地域住民の合意に基づくものでなければなりません。そうでないと義務教育の保障に反する。 今回提示された西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)に反対して意見と致します。	1	
-	全体	私は、市内の多くの市民から反対の声があがり、十分納得がいく説明もないままに小中学校の統廃合が進められていること、また、「一通り説明会はしましたよ。」という扱いで強行されようとしていることから計画案に対して反対致します。 住民間の対立を生んで、統廃合するのは間違っていると思います。 少子化は、だれも否定しないと思いますが、教育を大切にしないで地方の発展はありません。 地方自治体が非常に苦しい財政であることは分かりますが、西脇からは多くの学校が消えていく…。そんなことはとうてい納得がいきません。	1	

P25	第6章 西脇東中学校区内の小学校（比延小学校、双葉小学校）の統合	<p>なぜ双葉小学校を廃校にするのか。</p> <p>複式学級のどこが悪いのか、訳の分からない基準を尊重して、今後多様化する中で生じる教育環境の欠陥をカバーしてくれる同校を廃校にする理由が理解できない。市民と価値観を共有できない自殺行為は、特認校の優位性を生かすきれない市の行政力と、教育界の世間の狭さの表れと評価される。生徒数が伸びない原因は、それは全て教育委員会の努力不足と考える。</p>	1	<p>子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）を提示しています。</p> <p>双葉小学校に小規模特認校制度を導入した経緯については、双葉小学校の複式学級の解消を目指し開始したことにあります。</p> <p>複式学級にはメリット・デメリットがありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」、「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」、「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p>
P25	第6章 西脇東中学校区内の小学校（比延小学校、双葉小学校）の統合	<p>【双葉小学校を存続させてほしい】</p> <p>説明会では、「複式学級を解消するため」「心のケアは学校の規模によらない」「少人数の学校に行くことは対処療法にすぎない」というようなことをおっしゃられていました。複式学級がなぜだめなのかの理由もお聞かせいただきましたが、私にはそれが理解できませんでした。</p> <p>複式学級でも、小規模なりの教育が充実する方法はいくらでもあります。</p> <p>また、大人数だと学校にいけない子どもも一定数はいます。対処療法でもいい、とにかく、学びを止めない方法を考えてときに、少人数制という選択肢も残してほしいです。</p> <p>不登校に限らず、過敏症や、発達障害、その他、病気や障害の診断に至らずとも、いろいろな特性を持った子どもたちがいます。学校に行くことがかならずしも正解ではない社会にもなっています。</p> <p>現状の計画案では、大規模校あるいは一定数の学校しか残りません。</p> <p>また、今のように自然豊かな、地域密着型の素晴らしい双葉小学校を、西脇市の特色として打ち出すことで、移住促進にも繋がります。</p> <p>はればれ教室を双葉小学校に移すなど、いろいろな方法があると思います。双葉小学校を廃止にするのは、本当にもったいないと思います。</p>	1	<p>複式学級にはメリット・デメリットがありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p> <p>そのため西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）では、適正規模について「複式学級編制が生じないこと」としており、小規模校の中でも複式学級編制となっている、または複式学級編制となる可能性のある学校を統合の対象として総合的に判断しています。</p> <p>また、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引では、学級統合を選択しない場合、離島や豪雪地帯の山間部など物理的に児童生徒の移動が困難な場合や、通学の安全面に問題がある場合など各自治体の諸事情によるとの記載があります。</p>
P25	第6章 西脇東中学校区内の小学校（比延小学校、双葉小学校）の統合	<p>複式学級の是非に関して</p> <p>第5章で、小学校の統廃合対象は「複式学級編制が生じないこと」と定義されていますが、複式学級編成がなぜ生じてはならないかの根拠は明確に示されていません。</p> <p>○西脇市教育委員会では、なぜ西脇市において複式学級が解消されるべきものと考えているのでしょうか。</p> <p>文部科学省『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』にもあるように、必ずしも小規模、複式学級は否定されるべきものとはされていません。</p> <p>手引では自治体・地域の状況に応じた対策が講じられる必要性が説かれています。</p> <p>当然ながら小規模校ゆえのデメリットもありますが、一般的な小規模校のデメリットのみで統廃合という選択肢を推進しているのであれば、公正さに欠け、説明不足に感じられます。</p> <p>○大規模校のメリット、デメリットをどのように考えているか、また、それは西脇市の実態と照らし合わせて適当でしょうか。</p> <p>○小規模校のメリット、デメリットをどのように考えているか、また、それは西脇市の実態と照らし合わせて適当でしょうか。</p> <p>○これらを踏まえた上で、西脇市において小規模校を廃止する選択肢が適正だと判断した根拠をお教えてください。</p>	1	<p>複式学級にはメリット・デメリットがありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p> <p>そのため西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）では、適正規模について「複式学級編制が生じないこと」としており、小規模校の中でも複式学級編制となっている、または複式学級編制となる可能性のある学校を統合の対象として総合的に判断しています。</p> <p>また、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引では、学級統合を選択しない場合、離島や豪雪地帯の山間部など物理的に児童生徒の移動が困難な場合や、通学の安全面に問題がある場合など各自治体の諸事情によるとの記載があります。</p>
P27	第6章 黒田庄中学校区内の小学校（楠丘小学校、桜丘小学校）の統合	<p>桜丘小学校がなくなるのは反対です。西脇市は、子どもを大切に教育費を惜しまない自治体であってほしい。</p> <p>子ども達は地域の宝です。教育は本当に大切です。少人数だからこそ、一人一人を大切にできます。都会からの移住者も少しずつ増えてきています。子育てしやすい、子どもを大切に、という西脇市のイメージを定着させて、魅力がある自治体になってほしい。小学校は住民みんなのものです。桜丘小学校をなくさないでください。</p>	1	<p>桜丘小学校では、令和12年度から複式学級が発生する可能性があり、第5章で規定している「複式学級編制となっている小学校、又は複式学級編制になる可能性のある小学校を、学校統合の対象とします。」に該当することになります。少子化が進む中、子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）を提示しています。</p>
—	第6章 小中学校統合計画	<p>教育行政改革として、隣接市町村への住民票を移さずに編入できる話はなかったのですか。</p> <p>今回予定どおりに東中に統合された場合、黒田庄の小苗地区在住の子どもの利便性を考えると距離的(図った訳ではありません)に改築された山南中学への進学希望者があるかもしれません。</p>	1	<p>住民票を移さない区域外就学については、各市町教育委員会において一定の条件があり、その条件を満たさなければ区域外就学は認められません。</p>
—	第6章 小中学校統合計画	<p>このような統廃合校にするのならば、山南中学校と統合した方が黒田庄北部地域の生徒は通学も安全であり、（案）に入れて検討して頂きたい。</p>	1	

(4) 今後の参考とするもの (114件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
ー	全体	子どもたちのことを一番考えて下さるなら学校の場所はどこでも構いません。子どもたちが学びやすい環境、わからないことがあるとすぐに聞ける環境、他校と連携がとりやすい環境、子どもたちが安心安全に通えることが大切なのではないかと思えます。 津万地区に新設する案もスポーツ施設も近隣にたくさんあり、とてもいいなと感じました。 子どもたちが「自分たちで新しい学校を作っていくんだ」と希望がもてるようにしていただければと思います。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、今後とも丁寧に進めていきます。
ー	全体	説明会の参加者は、コミュニティスクールとしての機運が醸成され、地域連携が出来ない限り統合はないと理解した方が多いと感じました。私もそのように受け取りました。それであるならば、過去2年に渡る規模適正化検討会の真剣な議論は、何であったのか。疑問が残りました。その真意をお伺いします。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議で2年間協議し、答申をいただきました。 その答申を基本に西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を作成し説明を行いました。特に黒田庄地区においての西脇東中学校と黒田庄中学校の統合に関して、地域住民のご理解が得られない状況となり、その中でコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の話がありました。 また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。
ー	全体	この案を通じて感じた事は、これから将来を生きるのは若い人であり、将来を決めるのも若い人でなければならないと思った。もう60歳以上を卒業した人が将来を決めてはいけない時代になったと思う。 検討委員会のメンバーを、30~40才までの企業人、一般民間人、教員関係で構成し、過去の事例にとらわれない、斬新かつ大胆な発想でまとめてもらえれば良かったと思った。そして教育委員会はその後、その案を追認するだけで良いと思っている。私は、若い人達が考えて作り上げた案であれば、市民は受け入れやすく理解と協力も得られ、移行もスムーズに運ぶものと確信する。 検討すべき内容はまだまだある。旧行政地域内の黒田庄中学校の統合の是非、桜丘小と楠丘小の単純統合の是非、利便性あれば比延小へ一部転入、その他いろいろ考えると、結局小中一貫への垂直統合方式に至ってしまう。 併せて、校区撤廃は時代の流れ、それを取り入れることこの計画案の基盤は大きく変わる。過激な変動は好まないが、公立学校の運営も近代化と自由化の波に逆らえず、ここに来てやっと今までのツケを整理する、大きなターニングポイントが来たように思う。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。 また、開校準備会議には、就学前の児童をお持ちの子育て世代の保護者の方にも参加していただきたいと考えています。
ー	全体	今回の統廃合について現在、在学中の子どもとその保護者、またこれから入学することも園の保護者へのアンケートを実施されないのでしょうか？ 西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議で議論されて出た答申を元に計画を進めておられますが、『双葉小学校をおもう会』や『黒田庄中学校 廃校案の白紙を求める会』など反対する団体が出ている状況です。 現在通っている生徒やその保護者が多く声を挙げられている状況を無視して、このまま計画を進めるのは住民の意見を聞いたとは言えないと思えます。	1	西脇東中学校と黒田庄中学校との統合については、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。アンケートに関しては、実施する必要があるれば検討したいと考えています。
ー	全体	答申を行うための検討会議では、20名あまりで議論を行いました。欠席される委員もあつたことや、委員の意見だけが全市民の意見を代表しているわけではないという思いから、計画の推進にあたっては保護者や地域住民等に丁寧な説明を行い理解を得ることを求めました。このことは答申P15の付帯意見及び同案P4に記載のとおりです。 以上のことから、答申を受けて作成される計画案に対して理解が得られない場合は、再度、保護者・地域住民等の意見を十分に聴取し、その意見をもとに計画案を再検討することを求めます。	1	西脇東中学校と黒田庄中学校との統合については、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。
ー	全体	【旧西脇市に施設が偏っていることについて】 平成の合併前から、旧西脇市の住民です。旧西脇市の地区に市役所や図書館など市の重要な公共施設が集まっているように感じます。 そのため旧黒田庄町地区の中学校まで、東中に統合となると、黒田庄地区の方が反発される気持ちも理解できます。黒田庄にも拠点となる施設が必要だと思えます。小中一貫学校、コミュニティスクール、地域の公民館、防災施設等、多機能な施設を建てて、生徒の人数が減ったあとも、地域の基幹施設として活用できる施設を建設するのはどうでしょうか。これは東中に中途半端なプレハブ校舎を建設する予算を使うくらいなら、恒久的な施設に投資するほうがよいと思うからです。 将来の2拠点化についても、南中と、新しく建設される黒中、でバランス的にも良いのではないかと感じます。さらに言うと、この2拠点化する時点で、校区制は廃止し、どちらか生徒自身で選べるようになれば良いと思えます。	1	公共施設についてのご意見について、市長部局ともご意見を共有させていただきます。 公立学校の選択制については、毎年、児童生徒数が大きく変動する可能性があることや、通学手段の課題もあり現実的ではないと考えています。
ー	表紙	計画書の表紙に~未来を創造する子どもの良好な教育環境をめざして~とありますが何のうたい文句が分かりませんが計画案は全く逆だと考えます。	1	子どもたちにとって最適な環境を構築することを最優先に、持続可能でより良い教育環境の整備を考慮し、副題として記載しています。
P11 ~ P14	第2章 現中学校区ごとの現状と今後の見込み	西脇市の人口規模に関して 第2章でシミュレートされているとおり、西脇市の人口動態からも、学校の小規模化自体は避けられないことと思えますが、仮にすべてを統合しても、統合が果たされる頃には中規模相当となる可能性があるという課題が見逃されているように思えます。そうなった場合、統合後の規模ありきで達成しようとするメリット自体が揺らぎかねないように思えます。 人口減少は西脇市に限ったことではなく、周辺自治体でも同様の傾向、同様の検討が行われていくと思えますが、西脇市の学校統廃合により、実質、現校区からの引越しを余儀なくされる世帯が発生する可能性は高く、よりスケールメリットが得やすい周辺自治体・神戸や大阪などの都市部も移住選択肢に入ってくることは避けようがないように思えます。 つまり統廃合により、子育て世帯の流出がより加速するリスクがあると思えますが、それでもなお一定の学校規模を維持するという観点で統廃合を進めるべきなのでしょうか。 ○統廃合途中で、統合後の学校規模でさえ、数年以内に想定適正規模を下回る可能性が高まってきた場合、それでも画一的な学校規模の維持は目的になり得るのでしょうか。 西脇市は既に、大規模・中規模を保つアプローチが有効に機能するタイミングを過ぎてしまっているのではないかと懸念します。いずれ到来する更なる人口減少を見越した対策、増えようがないのであれば段階的に規模を維持しようとするのではなく、小規模であることを活かした形を目指し、周辺自治体と差別化することが必要ではないでしょうか。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。 移住等の政策に関しては、市長部局ともご意見を共有させていただきます。
ー	第3章 学びの質を高める学習環境	計画進捗における経年の環境変化に対する計画PDCAサイクルの設定と具体的な明示 令和15年までに調査検討会議を設置し、環境変化に対応するという計画について、世の中の変化のスピードと10年先の解像度の粗さを踏まえたときには、「時代、環境変化に応じた子どもたちにとっての最適な学習環境の維持・向上」という本計画達成の蓋然性が担保できない可能性があります。 については年度ごとに当初計画からの環境変化に対して計画の修正や更新が必要かの検証する仕組みと検討会議設置基準・決定のプロセスを本計画で明示が必要と考えます。 なおPDCAサイクルを回すにあたり、計画とのギャップのみの確認・議論ではなく、小中一貫校のメリット・デメリットの最新情報を常に開示しながら、「時代、環境変化に応じた子どもたちにとっての最適な学習環境の維持・向上」に常に立ち返りながら確認することが必要であると考えます。	1	開校の前には開校準備会議を設置し、学校の設置に関する内容について協議を行い開校に向けた準備を行います。学校が開校した際にはコミュニティ・スクールを設置し、学校の運営等についての協議を継続する予定です。 各学校の開校準備会議やコミュニティ・スクールで成果や課題について協議、共有することで、より良い在り方を検証していきます。 また、調査検討会議については、令和15年度を想定していますが、社会情勢等の変化により前倒して開催することも想定しています。

一	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>学習環境の要素である子ども、保護者、教職員、地域の方々などの現状と期待の明示 学習環境とは単に「学ぶ場所」の整備だけではなく、そこに関わる児童・生徒、保護者、教職員、地域の方々、行政などの意識・行動も環境の一つです。</p> <p>時代・環境変化に応じた子どもたちにとっての最適な学習環境の維持・向上、そして本計画におけるそれぞれの現状と課題、そして計画推進におけるそれぞれの役割や期待値の明示の計画への記載を要請します。</p> <p>現状をつまびらかに明らかにすることで、現在の子どもたちが抱える課題を明らかにすることは大人がそれぞれの役割や立場を通じてそれを一緒に解決する大切な情報であると考えています。問題や課題があることを過去の先陣や行政など他責にせず、向き合うことが前提での課題の明示が必要な時代になってきたと思います。</p>	1	今後の検討の参考にさせていただきます。
一	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>世代間交流は社会全体の学びの環境であり、子どもの存在は大人の成長の糧・社会の活力になることを前提とした配慮と仕掛けの検討</p> <p>日々の生活の中で自然に世代間交流がなされる環境が、相互に違いを含めて理解し合い合うことにつながり、人権感覚や社会的な意識が老若男女問わず学ぶ機会になります。また、子どもたちとの接点で大人の思考や行動を未来志向に変え、社会の持続可能な活力につながることは自明のことです。日々の子どもの姿を見るだけでも、大人は未来に思いを馳せ、影響を受けているといっても過言ではありません。それは世代間の分断を緩和し、お互いがお互いを思いやり他者を支え合う共助の思考と行動につながります。これは都市部では得られない環境の一つです。</p> <p>子どもの学習環境は学校という学ぶ場所だけではなく、子どもにとっての生活環境が学ぶ・育つフィールドであることを念頭に学校の統合に際しては、自然と世代間交流が行われる環境や導線も合わせて検討することを期待します。</p>	1	
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>教育の質に関して</p> <p>第3章で、学習環境について言及されていますが、具体的な方向性が分かりづらい箇所がありました。</p> <p>○小中一貫教育とは、最終的には公立小中一貫校、一校のみを設置する想定を示しているのでしょうか。</p> <p>そうでなければ、統廃合したからといって、一貫教育が実現しやすくなる理由にはなっていないように思われます。</p>	1	小中一貫教育については、現在、推進するための準備を進めています。 本市においては、小中一貫教育の類型として、併設型小学校・中学校を予定しており、使用する施設によって施設分離型になる場合、移動時間の確保などの課題があります。
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>小中一貫教育についてのビジョンは？</p> <p>P20「小中一貫教育をはじめとする新しい教育の仕組みを検討する」となっています。</p> <p>今後の課題ということでしょうか？学校の統合を進めながら、今後のビジョンが示されていないように感じます。財政的な背景や、人口減少による統廃合の波は致し方ないところではありますが、未来を担う児童・生徒にどのような教育をし、何を育てていくのか、何のために統合する必要があるのか、統合しない方がいいという意見があるのであれば、統合しないことで、子どもたちにどんな未来が開けるのか、しっかりとしたビジョンをもって計画の立案をして頂きたいと思います。</p>	1	
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>コミュニティ・スクールはあくまで統廃合後の学校で行われる想定の検討でしょうか。</p> <p>一部地域、コミュニティから学校をなくしてしまった上で、地域住民の参加を謳うことに矛盾と論理的破綻を感じます。</p> <p>他は、直接的に学校規模が影響するものは少ない、逆に大規模校ゆえに実現しづらいものもあるように思われました。</p> <p>個人としては、児童生徒に対して向き合う大人の数が、特に発達初期、小学校において重要であると考えますが、昨今の教員不足については、計画ではあまり言及されていないように思われます。</p>	1	コミュニティ・スクールは、保護者、地域が学校運営に参画、協力する体制のことをいいます。保護者、地域が学校に何が出来るかを考え、学校が地域に何が出来るかを考えるなどの協議が求められています。また、コミュニティ・スクールに関しては、順次立ち上げていきたいと考えています。
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>○学校規模適正化の必要性において、教員不足が占める重要度ほどの程度あるのでしょうか。</p> <p>○実際問題として、西脇市では教員数は現在何人不足していて、将来的には何人不足する想定なのでしょうか。</p> <p>教員数や学校運営は市の財政とも密接に関わってくると思われませんが、計画では財政面に対しては一部施設維持についてしか触れられていません。</p>	1	学校の学級数により、教員の定数(教頭+教員)の基準が定められており、兵庫県教育委員会が担当する教員数を決定します。 また、教育支援のためなど、様々な加配があり、それによってよりきめ細かい授業を展開することが可能となります。 教員の病休や途中退職等があった場合、代替の教員を探すとともに、児童生徒が不利にならないよう対応しています。
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>P16部活動の地域連携及び地域スポーツ・文化クラブ活動移行に向けた環境整備</p> <p>すでに文科省においても地域クラブ活動の在り方についてのガイドラインもでき、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととされています。</p> <p>これについて、西脇市では具体的にどのような運営・推進をされているのか教えて頂きたい。「整備できるように努める」という形ではなく、「早期に実現」できるように進めて頂きたい。主体となる児童・生徒が小学校・中学校で過ごせる時間は限られています。</p> <p>また、P17(3)教職員の勤務時間の適正化を「強力に推進」するためにも、必要なことではないでしょうか？</p> <p>また、運動系の場合、児童・生徒のみでチームを組んで活動を行っているイメージがありますが、文科系の場合、児童・生徒のみで活動をしているケースは少ないように思います。例えば、西脇市文化連盟に所属する文化団体への継続的な参加を部活動として承認して頂くことも検討して頂きたいと思います。</p>	1	スポーツ協会やスポーツクラブ、文化連盟等の代表者と学校関係者も含め、西脇市にあった地域移行の在り方について、協議を進めています。
P16	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>部活動の地域連携は黒中でも充分可能なのではないのでしょうか？資料には日照時間が黒中の方が2時間半短いと記載されていましたが、それは事実なのでしょう？事実であっても照明を付ければ事足りるのではないのでしょうか？そもそも「日照時間」という検討項目は必要なののでしょうか？</p>	1	スポーツ協会やスポーツクラブ、文化連盟等の代表者と学校関係者も含め、西脇市にあった地域移行の在り方について、協議を進めています。 日照時間については、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)には記載していません。
P17	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>P17(3)教職員の勤務時間の適正化</p> <p>冒頭に、この計画は、「教育の受益者である児童生徒にとって最適な学習環境を構築することを最優先に考え策定するもの」とあります。教職員の勤務時間の適正化が大事なことは理解できますが、児童・生徒にとって最適な学習環境を構築することを考えて策定されている学習環境適正化推進計画の課題として掲げるべき課題なのでしょうか？</p>	1	教員の勤務時間適正化によって、児童生徒と向き合う時間の確保や授業の工夫改善を行う時間を確保することによって、より良い学習環境になると考えています。
一	第3章 学びの質を高める学習環境	<p>最終的な2拠点化について未来の可能性・展望の明示</p> <p>子育て世帯は子どもの学習環境やその選択肢、家庭での負担を踏まえて住む場所を柔軟に変更します。特に「体験価値」、「可処分時間」が子どもの学習においても、若い世代の働く場においても選ばれるという観点では重要な要素になりつつあります。</p> <p>また、都市部の大手企業はすでに人口減少、少子化の影響から日本国内の人材獲得においては「成長機会」「可処分時間(休日・育児・家事の協働)」「賃上げ」を強化する流れになっていること、学習環境の個人の選択肢は都市部のほうが一見優位であるように見えることから、そんな中での令和20年の学校統合の方向性には未来の前向きな可能性を読み解けません。子育て世代や未来の子育て世代である子どもたちにとってマイナスの印象を与え、印象だけで人口流出につながり、計画の蓋然性が損なわれてしまいます。</p> <p>将来2拠点となったとしても、様々な学習における選択肢や将来の子育てを担う今の子どもたちにとっての未来の可能性を示していただくをお願いします。15年先の未来のことですので、計画に盛り込めない場合は事例で結構ですのでICT環境を整えた分教習や、VRを活用した学習環境への挑戦など本計画検討以降のコロナ禍で経験した環境変化や未来予想などの展望を補足いただくことを要請します。</p>	1	教育面に関しては、第4期教育振興基本計画に基づき毎年策定している教育の指針等の中で、展望を周知していきます。

-	全体	大事な子どもたちの将来の教育についてのことであるため、タイムスケジュールありきで結論を急ぐのではなく、もう少し地域・住民の中で充分議論を尽くし、より良い「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画」を作り上げられるように要望致します。	1	子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。
-	全体	最初から、小中一貫方式を放棄、従来教育方式の継承、同位校間の水平統合で統廃合の基準の達成にこだわり、物理的処理でまとめる事に専念した為に、固定化された枠内での検討案も限界に至っていたと思われる。 最近の案の中では結局、小中一貫導入の言葉も見られるが、小中一貫は付け足し感で後順位の印象を受ける。これでは学校側の自分の為の計画遂行か?という思いになる。 私は、本来、生徒数が少人数ほど丁寧な教育指導が出来ると思うが、逆に集約化を進めるのは、今困っている教育内容の高度化、労働環境、教員不足、人件費、施設管理費等の対策上と、今後の教育の質の維持には必要不可欠な計画である事を市民に説明して理解を求めたのが筋だと思う。 戦略的には、目的を最初から小中一貫を基盤に据えた立案であったならば、生徒、父兄、地域も新しい教育制度に希望と期待を持ち、垣根を超えた統合も軽く乗り越えられたと思うが、今は残念ながら、路線が違ったままで計画も揺らいでいる。当然、小中一貫にも問題が出てくるだろうが、チャレンジ精神と共に解決努力する学校の姿を見せる事も大切な教育の一環だ。 教室の勉強だけが教育ではない。私は小中一貫の姿はそこにあり、人間を大きく成長させてくれる環境と信じている。だから他市の趨勢も小中一貫体制に動いている。導入する姿勢に対して、市民からも高い先進的な評価を受けているのも当然だと思う。 学校の建替えについて、補助金あるものの市の負担金も巨額になるはず。残念ながら現在でも市の財政は先細りで15年後の資金余力は更に無いと私は想像する。 本当にこの2校案の作成時点で資金調達のメドまで詰められた話か。調達メドなき場合はこの計画全ての信ぴょう性は無くなる。見切り発車は許されない。 児童生徒数について、安易に3校から2校に絞る事の裏返しは西脇市の小規模化と衰退を公表するに等しく、社会流出が加速して更に人口の減少の要因になる。結果、教育委員会の将来見込んでいた生徒数もアテにならず幻になるのではないか。 市政方針変化のリスクの件について、15年後に至るまでには当然市長選もある、市長が変われば教育長も代わるはず。次回の選挙時にもこの計画案は大きな政争の具になるはずで、考え方が相違した首長に変わればこの計画は幻となるのではないか。 15年後は現在の生徒は誰も不在で既に先発する加東、小野が短期間で具体化、後発のこの計画がなぜ更に遅れて幻の15年を要するのか。最終責任は誰が負うのか。そんな計画案に対して言えるのは、「計画の期限というものは、誰が見ても分かる範囲でなければ計画とは言えない」につづる。	1	
-	全体	地域から学校がなくなれば「地方創生」どころか人口減・子育て世帯が減り超高齢化と過疎化に拍車をかける悪循環になりかねません。そして、義務教育の保障に反する公教育の基礎的部分を等しく享受できなくなります。	1	
-	全体	少子高齢化・人口減少・田舎暮らしのそんな中でも、自分なりに家族を守り、地域を守り(清普請・河川愛護・道普請)等に参加し、移住者を歓迎し、地域や自分が少しでも元気に豊かに過ごせるようにと願って日々生活しています。 歩いて登校できる地元の小学校は、児童にとって心身を鍛え地域愛を育む地域の宝物です。どうか今の小学校全部を存続させてください。そのために税金を使ってください。過疎な地域ほど学校が必要です。公共施設等が一部に集中するのは無く、西脇市民みんなが平等に恩恵を受けることができ、豊かに生活できる西脇市にしてください。	1	
-	全体	市内中学校の新制服の案内にしても、コンセプトも小物類も数年前の播州織制服デザインコンペの欠片も見えず、選択できる3タイプの制服も色違いのみ。決定に至った経緯も見えてこないで、これから先の「生徒が誇りを持てる制服」と言えるのか甚だ疑問に感じています。当該計画案と同じぐらい大切な制服の決定ですら、どのような過程で決められたかわからない状態(知らないだけで、様々な広報がされていたのかも知れませんが…)で決まっています。幸い当該計画案は、まだ(案)の段階です。様々な意見があると思いますが、当該計画は、これから先の西脇市の形、未来を形成する大切な事業ですので、丁寧な説明と、子どもたちの将来を考えて、計画の策定をして頂くことを切に願います。	1	
-	第3章 学びの質を高める学習環境	小規模でも心は充分に育まれています。ハード面ばかりを考えず、子ども民主主義制に力を入れてはどうでしょうか。	1	
-	第3章 学びの質を高める学習環境	自然と非認知能力が身に付けば、大規模な環境にも適用出来る子に育つのではと思います。地域に密着したオリジナル教育路線が展開できれば、西脇の強みになると思われ。他所の真似では、西脇に移住したい子育て世帯は僅かだと思いますが…。 西脇市に住んで良かった、子育てして良かったと思える街づくりにしていただけると願っています。 コンパクトシティも大切かもしれませんが、コンパクトな考え方をされず、施設に関しましても平均的な建設、設置を願います。	1	
-	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	学校規模適正化はあくまで教育の質のためであり、財政的な理由ではないのでしょうか。	1	
-	第6章 小中学校統合計画	地域に小学校は必要。地域発展、交流、地域全体で子どもを育てる。 地域に小学校が無くなれば、その地域は衰退する。説明会で、コンパクトネットワークと言われていたが、学校に関してはコンパクトにはいけないと思う。	1	
-	第6章 小中学校統合計画	まずは黒田庄中、西脇東中、双方の子どもたちが、安心、安全で楽しく中学生生活を送る場所を考えて頂きたいです。	1	
-	第6章 小中学校統合計画	小中学校の統廃合は、その地区に暮らす多くの児童生徒、保護者にとても大きな生活の変化を与えることになります。統廃合にあたっては、住民の声をしっかり吸い上げ、できる限り多くの人が納得した上で進めてもらいたいと強く願います。 少子化が進む今だからこそ丁寧に、未来のある貴重な子どもたちにとって最善の方法を重視してもらいたい。	1	
-	第6章 小中学校統合計画	住民の声に耳を傾け、慎重に進めていきたいと願います。規模や国からの助成金に囚われず、独自の路線で動められては如何でしょうか。	1	
-	第6章 小中学校統合計画	国や自治体の財政事情が優先する問題ではなく、あくまで地方自治体、保護者、地域住民の合意に基づくものでなければなりません。	1	

P20	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>P20 学校運営</p> <p>・多様な個性・性格・専門性・能力・指導力を持つ教職員を、性別・年齢層別にバランスよく配置できるとされていますが、現在、各学校に配置されている教職員の性別・年齢層別、教科別の人数構成を教えてください。</p> <p>文科省の手引きでは、専門性バランスも考慮するように記載がありましたが、ここには「専門性バランス」の記載がありません。免許外指導や臨時講師の配置など実情を知りたい。すでに、東中学校では、美術教科の先生常駐されていないということが起きているそうです。繰り返しになりますが、1学年1学級となることによる教員配置のアンバランスが、生徒の学習環境にどのように影響してくるのかを示して頂きたい。</p> <p>特に教科担任制をとる中学校において、既に影響が生じていること、今後生じると予測できることについて具体的に示して頂きたいと思えます。現在の教職員の性別・年齢別かつ正規採用であるか臨時採用であるか、並びに専門教科別に分布図などを示して頂きたい。なぜなら、学校規模や、統合時期の判断に欠かせない情報であると考えられるからです。</p>	<p>小学校では男性45%、女性55%、中学校では男性61%、女性39%、全体では男性46%、女性54%となっています。</p> <p>また、年齢別の分布としては、30代、40代、続いて50代が多くなっています。</p> <p>教科別の人数構成については、教科により授業時数が変わるため、授業時数に合わせ、少人数授業を行うことにも配慮した人数となっています。</p> <p>教員全体の内、産休等の代替を含む臨時講師、非常勤講師の割合は、約30%程度となっています。</p> <p>学校に配置される教員の数は、学級数によって配置が決定されます。西脇東中学校では、教員の定数（教頭+教員）は8人となり、全10教科の教員が配置されない状況となりますが、兵庫県教育委員会から加配措置を受けることで、全10教科の授業ができる状況となっています。</p> <p>今後、黒田庄中学校でも同様の状況になることが想定されますが、加配の教員が配置されるかは不明です。</p> <p>なお、免許外指導については、西脇市では行っていません。</p>
—	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>少人数で学べる環境を望みます。</p> <p>生徒と教師がゆとりある授業、学校生活が過ごせる健康、子どもの成長が見守れる教育環境が一番と想像します。</p>	<p>1</p> <p>少人数には少人数で教えることのよさがありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」、「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」、「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p>
—	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>教職員の多忙化が極まる中「もうギリギリ」と言う現場の悲鳴をよく聞きます。ゆとりある教育環境をつくるために、少人数学級実現も良いのではないのでしょうか。</p>	<p>1</p> <p>公立学校の学級編成基準は、令和5年度時点の兵庫県の基準で小学4年生以下で35人、小学5年生以上で40人とされています。</p> <p>教員の勤務時間適正化によって、児童生徒と向き合う時間の確保や授業の工夫改善を行う時間を確保することによって、より良い学習環境になると考えています。</p>
—	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>子どもたちにとってより良い学習環境を行う点に関して、学校を統廃合することにより、集団での学びや活動が確保され制約がなくなるという良さがあります。しかし、子どもの数が減っていくなかでも統合により、現在よりも教員一人当たりの児童数が増えることが考えられます。（重春・西脇以外）</p> <p>現在、重春小学校では小規模校と異なり、35人を超える学級が多数あり、教員の仕事量が多忙を極めるだけでなく、個に応じた学びや個別最適化の学習に限度を感じています。また、集団活動においても、人数が多く活動しにくい場面が多々あります。</p> <p>子どもたちにとってより良い学習環境を考えると、1学級30人以下が良いのではないかと考えます。統廃合する上で、上記の条件を入れていただくことで、子どもたちの確かな学力を保障し、また教員の仕事を軽減するものと考えます。</p> <p>また、現在教員の新規採用を取らない考えの理由として、統廃合を見据えた教員の確保と述べられておりました。予測することが難しい将来の教職員数を懸念し採用しないことで、現在、人員不足が生じているのはご存知だと思います。将来のことも大事ですが、いま現在、教員が不足することで、子どもたちへの指導が不十分になったり、教職員の負担が増えたりしています。ぜひ、今の子どもたちの教育、教職員の事も念頭に置いた上で計画を考えていただきたいと思っています。</p>	<p>1</p> <p>公立学校の学級編成基準は、令和5年度時点の兵庫県の基準で小学4年生以下で35人、小学5年生以上で40人とされています。</p> <p>また、人口推計から、令和11年度以降に1学級当たり30人を上回ると想定される統合校は、重春小学校と芳田小学校、西脇小学校と日野小学校の統合校で、比延小学校と双葉小学校、楠丘小学校と桜丘小学校については、1学級当たり30人を下回ると見込んでいます。</p>
—	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>少人数制の良さ。コロナ禍で実感。小規模校を残してほしい。</p> <p>統合したとしても、地域独自で、少人数クラスにしてほしい。20～30人学級。35人は多い。</p>	<p>1</p> <p>公立学校の学級編成基準は、令和5年度時点の兵庫県の基準で小学4年生以下で35人、小学5年生以上で40人とされています。</p>
P21	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>何をもちいて適正規模を定めたのか。統合は児童・生徒にとってどんなメリットとデメリットがあるのか？そのメリットとデメリットは一人一人の児童・生徒に平等であるのか。</p>	<p>1</p> <p>小規模校には小規模校の良さがありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」、「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」、「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p>
P21	第5章 学校規模・学校配置の基本的な方針	<p>当該計画案では、小学校・中学校の適正な規模をどう考えられているのか市民に説明をして頂いた上で、当該推進計画を立案して頂きたく存じます。</p> <p>P21に小学校（複式学級編成が生じないこと）・中学校（1学年2学級以上が確保できる規模）を適正規模とすると記載されていますが、果たして「適正な規模」と言えるのかという疑問があります。また、当該規模が適正であるなら、小学校で1学年2学級以上の学校は、適正規模から逸脱しています。また中学校については、「2学級以上」のため大規模校も「適正規模」となるのではないのでしょうか。</p>	<p>1</p> <p>学校再編を検討する基準として、適正規模・適正配置の方針を定めています。</p>
—	第6章 小中学校統合計画	<p>中学校統合について、黒田庄中学校が西脇東中学校に統合されるとの計画ですが生徒数的に格差があり西脇市予算面に致しましても幾何かの増額支出となると思います。黒田庄中学校を西脇北中学校に変更する事も出来ると思いますので、不公平の無いような計画方針に変更していただくようお願い申し上げます。尚年々各地区も子ども・生徒数の激減課題に苦慮しているようですので統合する事については異存はございません。</p>	<p>1</p> <p>子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）を提示しています。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>

-	第6章 小中学校統合計画	<p>全体説明の流れはまず、期間に関するまとめ方、次に調査検討、最後に保護者説明の流れで令和15年度までに、まとめたい考え。</p> <p>私は基本計画の進め方は、最初、地域市民との意見交換会、提案に対し地域関係者、また子ども子育て中のご父兄の方々にご意見等頂く中、順次会議を煮詰めて行くべきと考えます。現存する学校について環境の違いが多くありすぎ、一斉に整理するのは無理と考えます。</p> <p>行政サイドの計画案に最終従う事になると考えますが、1件でも検討して頂く議論の場が必要と考えます。</p> <p>時間が経てば環境になれると考えますが、そのカウンセリング等の対策は大丈夫なのかどうか。単に事務所を置いてもまず相談には来ないと考えます。授業のカリキュラム編成が大事と考えます。おおよそ、小学校で3～4年、中学校で3年、勉学に重きを置いてくれるような授業内容が必要ではないか。</p> <p>場所にもよるがスクールバス運行についても、保護者側の環境の差もあろうと考え、充分な上にもしっかりとした形にしなければならぬと考えます。</p> <p>今大切なのは、校区内での実態から今後どうあるべきか議論をして頂き、ワークショップ内容をそれぞれ提出して頂く。そしてまず地域ごとに詰めるところは詰めて、行政側も計画変更も視野に入れながら総合まとめをすべきと考えます。</p> <p>何れにしても、15年先のような、しっかりした計画になる事を願っています。</p> <p>区長会長から出ましたが、今検討に関わっている我々は何れ先が見えています。若い世代の方々を中心に議論を多く重ねて行けばそれなりの形が見えるのではないのでしょうか。学生はしっかりと夢を持ち、高校、大学等進んで頂き大きくなって地元に戻ってきてもらえるような、西脇市にとって一番大切の問題点と考え、しっかりサポートして頂きますようお願いしたい。</p>	<p>子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p> <p>通学については、原則として統合により通学する学校が変わる児童生徒を対象に、通学時間及び通学距離が適正範囲となるよう支援していきます。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>今回の小学校、中学校の統合は少子化対策の一環だと承知しておりますが、これはまた西脇市が進めようとしているコンパクトシティ化を目指す政策に沿った提案なのですか。</p> <p>もし、そうならば住民の理解を得るために地域の区長会、PTA役員会等に赴いて丁寧に説明し、賛同を得るべき努力をすべきだと思いますが如何でしょうか。</p> <p>もちろん市は国土交通省が推し進めているコンパクトシティ化を提案し、理解してもらっていると思いますが、明石市、芦屋市等の地域においても住民との対話が如何に大事かと思えます。住民目線での対応を期待します。</p>	<p>子どもたちにとって最適な学習環境を構築することを最優先に、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)を提示しています。</p> <p>また、今後とも丁寧に進めていきます。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>学校規模の適正化・適正配置について行った答申P15には、付帯意見として「保護者・地域住民をはじめとする関係者に対して、適時・適切な情報提供や丁寧な説明をしてください。」と明記してあります。</p> <p>しかし、答申後に示された「西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)」の説明会は、各校区で1回のみ計画されているだけで、答申で求めた内容に対して不十分です。また、芳田地区で行われた同案の説明会の際、「この計画案を最終決定とするかどうか保護者等と合意形成を図る場を持つのか?」との質問に対して「計画はこれで決定とし合意形成の場合は設けない」と回答がありました。これは答申で求めた内容から大きく逸脱するものであり、同案P4に記載された「本計画の推進に当たっては、保護者、地域住民、学校関係者等と共通理解、合意形成を図りながら進めるものとします。」という内容とも矛盾するものです。</p> <p>保護者・地域住民等へ丁寧な説明を行い、十分に合意形成を行った上で計画を推進することを求めます。</p>	<p>西脇東中学校と黒田庄中学校との統合については、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p> <p>また、小学校の統合に関しては、説明会の状況等により、ある程度の合意が得られたとして、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)のとおり進めていきたいと考えています。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>小中学校の統合に関して、3拠点→2拠点化の前段階とはいえ中学校の配置に関して小学校の校舎や敷地を活用する案は検討されていなかったとの事でしたが、是非これからでも考えていただきたいと思えます。</p> <p>黒田庄中と西脇東中の統合の説明を伺ったときにどちらかの中学へ寄せるのではなく別の選択肢もあるのではと考えます。</p> <p>楠丘小が両中学の中間地点にあること、校舎が築30年程度でまだ比較的新しいこと、生徒数の推移では減る一方ならば小学校校舎の改修で小中学校一貫校に対応できる可能性もあるのではないかと考えました。</p> <p>学校の存廃は地域全体への影響が大きいですので慎重にならざるを得ないのは理解しますが、学校の規模縮小というこれまでにない事をやろうとしておられる訳であれば、これまでの常識にとらわれないで、あらゆる可能性を排除することなく検討していただきたいです。</p> <p>また、将来的に小中学校一貫校になる場合、移行期の中学校の生徒さんは通う予定のなかった遠くの中学へ行くより近くで馴染みのある小学校の転用校舎へ通う方が変化によるストレスが少ないのではないかと考えます。</p>	<p>楠丘小学校については、令和12年に桜丘小学校との統合が計画されており、建物の築年数や建物の状況を見た安全性等の理由から桜丘小学校よりも楠丘小学校を利用することが望ましいと考えています。</p> <p>また、楠丘小学校を中学校として使用するためには、木工室・金工室等の特別教室を設置する必要があること、小中一貫校とするには体育館の増築、グラウンドの整備など課題も多くあると考えています。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>説明の中で、西脇東中、黒田庄中の統合、西脇東中拠点の理由として、①校舎の老朽化、②クラブ活動の地域移行、③通学方法が話されましたが、これでは、住民への説明としては不十分かと感じました。学校における児童生徒数の減少で、クラス数の減少により教員配置数がどのように現状の法令ではなっているか。教員配置数が少なくなることで、具体的はどのような状況が生まれるか。教科指導では、様々な学校教育活動ではどんな問題が起きてくるかといった問題についても説明してはどうでしょうか。満足のいく学校運営、学校教育活動を保証する意味で、適切な児童生徒数の確保、教員数の確保が必要で統合は避けられないことも再度伝えられてはどうかと思うのです。</p> <p>今のままでは、西脇東中、黒田庄中のどちらを拠点にした統合案も、大きな反対運動で終始する気がします。地域の対立した形の統合ではなく、ある程度説明に納得し、お互いの妥協点や折り合いをつけた形での統合を望みます。時間には制約はあるかと思いますが、粘り強く説明会を開いていただき、丁寧な説明をお願いします。</p>	<p>中学校では、全ての学年が1学級になり、特別支援学級がない場合の教員の定数(教頭+教員)は8人となります。</p> <p>全ての学年が2学級になったときに、教員の定数は10人となります。</p> <p>全ての学年が1学級になると、教員の定数は教科数の10を超えませんが、兵庫県教育委員会からの教員の加配措置を受けることにより、全ての教科に教員を配置できています。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との統合に関しては、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 小中学校統合計画	<p>【図表27・28】甚大な労力を払い統合して、12年後に廃校、そしてまた統合の代償は大き過ぎる。</p> <p>【図表29・41】主要建築物一覧から見る意図について、屋内運動場の建築年数と築年数の比較で、黒田庄中学校の老築が分かるが、2005年10月1日市町合併後の桜丘小学校・楠丘小学校・黒田庄中学校の新建物が一つも無し・合併以前に教育環境が整えられていた。</p> <p>教室数や屋内運動場の面積や特別施設等の学習活動に必要な資料がない。</p>	<p>黒田庄中学校は全学年3学級、西脇東中学校は全学年2学級を想定した設計となっています。</p> <p>そのため、黒田庄中学校には理科室が2教室、木工室・金工室がありますが、西脇東中学校は理科室が1教室、技術室1教室となっており、教室数に違いがあります。</p>

-	第6章 小中学校統合計画	<p>南中学校設計完了から開校まで約4年かかっています。設計完了までの計画段階からですと何年を費やしているかわかりませんが、まだ学校の配置場所も決まっていない状態で、用地買収も含めて考えると、令和15年から調査検討会議、翌年に開校準備会議を設置して、令和20年に新校を開校するのは計画的に無理があると思います。すでに市長への答申がでてからも、1年経っていますので、その会議で作成されていた計画も1年ずつ延びています。</p> <p>その間に、近隣他市町では、小中一貫校の設置や、小、中学校の統合を進め、既に開校されているところも多数あります。早期に統合することだけが、子どもたちの学習環境をよくするわけでないとは思いますが、今から15年以上も先に統合していくと西脇市とスピード感が異なり、西脇市だけが取り残されるのではないかと危惧しています。財政的背景や教職員の確保についての問題もあり、一定規模の学校へ統合せざるを得ない事情もあると思います。そのあたりも加味すると、適正化委員会の答申による2拠点案への移行が早まることになり、3拠点へのワクシオンが本当に必要となるのか再考の余地があるのではないのでしょうか？</p>	<p>1</p> <p>中学校4拠点から3拠点を経ずに2拠点へ向かうご意見は、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議でも議論されました。しかし、いきなり2拠点となると早期の開校が難しく、時間がかかることが想定され、すでに1学年1学級となっている西脇東中学校の現状から、3拠点を経て2拠点とする答申が提出されました。これらのことから、答申を尊重し進めていきたいと考えています。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>中学校統合に関する意見として、総合する事には異論はありません。</p> <p>2038年には2校となる計画も、少子化と、職員数等の事を考えれば自然の成り行きだと思います。</p> <p>今回は黒田庄中と西脇東中の統合で、黒田庄の説明会でも多くの感情論があり論争されていますが、西脇中学校と統合される時には同様なことになるでしょう。この際、十分に話し合い、納得のうえ、小中一貫校の(3中学校統合)計画をすすめるのが良いのではないのでしょうか。</p>	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>2拠点化の時期を早めるべきではないかと思えます。2拠点化の時期を早めると、3校区分の生徒数がまだ多いため新設校のキャパシティをオーバーするという状況になるかもしれませんが、それこそ新設校に一時的にプレハブ校舎を建てて生徒数が落ち着いた時に撤去するか、西脇中学校の校区を新設校と西脇南中学校に分けるという校区の再編を検討してはどうかでしょう。西脇南中学校についても生徒数の減少はあるので、そこを補うこともできると思えます。</p> <p>2拠点化の時期を早めれば校舎の使用年数も短縮でき、黒田庄中学校を活用した場合でも築年数の問題を低減できると思えます。</p> <p>極論になりますが3拠点化→2拠点化と段階的な推進は止め、一気に2拠点化を図れば統合の手間も1回で済みますし、西脇東中学校区・黒田庄中学校区を含め西脇市民も納得できるのではないかと思います。</p> <p>検討会議からの答申に反することになりますが、必ずしも答申に従わないといけないのでしょうか。多可町の3中学校の統合も参考にしながら、検討されてはどうかでしょう。</p>	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>今後予想される市内の児童生徒数の減少の数値から、最終的には令和20年からの2拠点化の方針に向け、その経過措置としての西脇東中、黒田庄中の統合化が出てきていますが、私の意見としては、西脇東中と西脇中の統合、黒田庄中、西脇南中の3拠点化を提案します。</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西脇市全体の今後の街づくり、西脇市の今後の発展は、国道175号線、加古川水系を軸にした南北の線上のバランスが大切かと思うのです。黒田庄地域から将来学校が無くなると、完全に西脇地区、重春地区に人口は集中(旧西脇市)になってしまうことを懸念します。 ・西脇地区、津万比延地区との関係は、ももとの西脇市の関係から、生活、文化圏としても馴染みのある関係であり、最終的に西脇中学校を中心とした校区編成を考える上で、拠点となる西脇中学校の校舎老朽化、新設の課題も出てくるかと思うのです。校舎の新設となると、現在の杉原川沿いでは浸水等の課題もあり、場所を童子山なり津万地域へ移転することも考えられるかと思うのです。そのタイミングが西脇中学校拠点化に伴う黒田庄中学校の統合という流れはないでしょうか。 ・小中学校の9年間の一貫教育においても、今の提案では、同じ敷地内に小学校中学校の校舎が存在するのではなく、場所を離れた関係で一貫教育だけに、教員の移動においても近いことがポイントかと思えます。 	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>先日、説明会に参加しましたが、西脇中学校と黒田庄中学校の統合について、活発な話し合いがされていましたが、今のままでは、どちらの中学校になっても収まりがつかなくなるのではと心配になりましたので、これを解消するための案を提案します。</p> <p>まず、将来の中学校2拠点化の際、杉原川流域は南中学校、加古川流域は統合中学校とする。これによって峠を越える通学を避けることができる。統合中学校の校区は津万地区、比延地区、黒田庄地区とし、残りは南中学校の校区とする。</p> <p>この案を前提として、日本へそ公園駅の近くに統合中学校を新設する。当面は黒田庄地区と比延地区とするが希望があれば津万地区の生徒も受け入れる。</p> <p>黒田庄地区と比延地区の争いなどが生じないことを願っています。</p>	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>出来ることなら令和20年統合予定の新校舎の建設を前倒ししていただき、それまでは、それぞれが教育環境をしのぎながら同時に移転する方向を検討いただけたらと希望する次第です。</p>	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>どうして西脇中学校が新設中学校に移動する同じタイミングで黒中と東中も統合という形にできないのですか？</p> <p>一旦3拠点にする理由が分かりません。</p> <p>環境の変化により学校別で優劣が生まれなないためにも、できるだけ多くの生徒が同じタイミングで環境の変化に順応していくことが大切だと思います。</p>	<p>1</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>補足説明でスポーツ施設・文化施設との距離について言及されていますが、現状そして今後や統合後でそれら施設を頻繁に使うことはあるのでしょうか。日常的に利用することがないのであれば、それら施設が近いというメリットは薄いように思います。むしろ人口重心地が黒田庄中学校に近いということは黒田庄地区の方が子どもの数も多く、たとえ西脇東中学校とスポーツ施設・文化施設が近くとも黒田庄地区の多くの子どもたちからしたら遠いことに変わりないと思います。</p> <p>補足説明で西脇中学校や西脇南中学校とも連携が図りやすいとありますが、他校区のことです。西脇東中学校と黒田庄中学校の統合において関係ないのではないですか。生徒が学校間を行き来することが頻繁にあるのでしょうか。他の中学校に近いという理由は人口重心地の考え方と矛盾していませんか。連携というなら今の時代は物理的に離れていてもICTの活用で連携が図れると思います。</p>	<p>1</p> <p>ICTの活用も一つの方策ではありますが、「班活動やグループ活動に少人数による制約がないこと」、「集団による多様な学びや体験活動の実施ができること」、「児童生徒の人間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制が可能になること」など、一定の人数がいることでできることを優先に考えています。</p>
-	第6章 小中学校統合計画	<p>小中学校統合計画について、段階的に統合が実施されることですが、西脇市が深刻な少子化に悩まされ年々児童の数が急激に減少しているのは承知しております。高齢化地域の中で唯一活気のある声が聞こえる学びの場が黒田庄地域からなくなってしまうのは惜しいですが、適正な教育環境を維持するためには仕方のないことであると理解しています。</p> <p>黒田庄中学校と西脇東中学校を比較すると建築年は確かに黒田庄中学校が古いですが、校区別生徒数推移は西脇東中学校区が少なく半数以上の生徒が黒田庄地区を占めています。</p> <p>そこで提案なのですが、桜丘小学校、黒田庄中学校と近くの地域を廃校せずに小学校は黒田庄北(桜丘)の区域、中学校は西脇市郊外(西脇東中学校)の地域に拠点を置くという案です。スクールバスを導入されるということですが、丹波市側の地域の子どもたちが小学校は黒田庄、中学校は西脇東とスクールバスを利用せざるを得ない距離で、不公平じゃないかと考えているのです。この地域の子たちは自転車に乗らずに義務教育をバスで終えるのも何か悲しく感じます。拠点を小中分担させることによって登校の割合を平等にできると思うのですが、どうでしょうか。</p>	<p>1</p> <p>桜丘小学校については、令和12年に黒田庄小学校との統合が計画されており、建物の築年数や建物の状況を見た安全性等の理由から桜丘小学校よりも黒田庄小学校を利用することが望ましいと考えています。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編に関しては、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会(仮称)等の意見を参考に、教育委員会が再度協議を行う予定としています。</p>

一	第6章 小中学校統合計画	<p>何故これまでに各校区での説明会を開催されてこなかったのか。地域の区長からも地区の総会に於いても統廃合の正式な（噂は聞きましたか）話はなかったです。地域の重大事項と思いますが、行政の怠慢でしょうか。</p> <p>今回の説明には「小中一貫教育導入」の方針が語られております。そこで、桜丘、楠丘、黒中と比延、双葉、東中のそれぞれを統合し、3年後に2地点での小中一貫教育にする案はなかったのでしょうか。この方が少子化対策としてスムーズに受け入れられたのではと思います。</p> <p>統廃合の条件に照らし合わせれば東中になるとの案でしたが、昨今の行政政策として「子育てがしやすい町」「子どもの教育に力を注いでいる町」を掲げている市町村は人気があります。</p> <p>少子化の問題は避けられない事案であり、統廃合は致し方ないと考えますが近隣の加東市の「小中一貫教育」は十分に検証されたのでしょうか。</p>	<p>令和2年度から2年間西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議を開催し、その間、各中学校区での地域会議を4回、市内8地区での現状説明会を2回ずつ開催しました。</p> <p>中学校4拠点から3拠点を経ずに2拠点へ向かうご意見は、西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議でも議論されました。しかし、いきなり2拠点となると早期の開校が難しく、時間がかかることが想定され、すでに1学年1学級となっている西脇東中学校の現状から、3拠点を経て2拠点とする答申が提出されました。これらことから、答申を尊重し進めていきたいと考えています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>「西脇東中学校の方が市の文化・スポーツ施設に近く他の中学校と連携が図りやすいこと」について、丹波地区との連携も視野に入れると、黒田庄中学校を残し黒田庄中学校に統合する方が、よりメリットがあるのではないかと考えられること。</p>	<p>部活動の地域移行に関するご意見の一つとして、参考にご意見を伺います。</p> <p>西脇東中学校と黒田庄中学校の再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>実家の両親や黒田庄在住の友人らにこの話をしてみると廃校案を知っている人がほとんどいませんでした。</p> <p>まずこのような案が出ていた事すら住民が知らなかった事実に疑問を感じます。</p> <p>また、既にこの案は決定事項であり、6月に行われた説明会をもって8月には決定するという事にも驚きました。</p> <p>住民への十分な説明がなまにいつの間にか計画が進み、決定されたという事に強い疑問を感じます。</p> <p>また黒田庄中学を廃校にして東中に統合する理由についても、その説明が不十分に感じます。</p> <p>(人口重心地のデータ、日照時間の差等、とても納得の出来る理由ではないと感じた)</p> <p>本来の目的(少子化が進む中、十分な教育環境を市内全ての子どもたちが今後も受け続けられるようにする環境作り)に立ち返り、住民と共に再検討の必要があると思います。この案を決定とせず、一旦白紙にして頂くことを求めます。</p>	<p>令和2年度から2年間西脇市立学校学習環境規模適正化検討会議を開催し、その間、各中学校区での地域会議を4回、市内8地区での現状説明会を2回ずつ開催しました。</p> <p>日照時間については、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）には記載していません。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編に関しては、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>黒田庄中学校の廃校に納得できません。昨年からの説明会では、少子化の中で複式学級やクラス替えのできない状況をつくらないうちに統廃合が必要である、と受け取りました。現在も東中は1クラスですが、黒田庄中学校は2クラスです。なぜクラス替えできる学校が廃校になるのか？理由が分かりません。理由として挙げられていた、日照時間や人口重心地などは意味のないことだと説明会で明らかでした。</p> <p>では何故？明らかな理由をしりたいです。</p>	<p>日照時間については、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）には記載していません。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編に関しては、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>黒田庄中学校と東中学校の合併について</p> <p>将来的に小中一貫校にならざるを得ないと考えたとき、黒田庄中学校と西脇東中の合併は、人数が倍近い多い黒田庄中学校に併合すべきと考えます。また、東中学校の生徒は、選択制で西中学校が黒田庄中学校を選ぶのはどうでしょうか。</p>	<p>公立学校の選択制については、毎年、児童生徒数が大きく変動する可能性があることや、通学手段の課題もあり、現実的ではないと考えています。</p> <p>また、西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>何故東中と黒中の統合計画が2026年なのか。10年後には適正規模としている1学年2学級以上が確保できない見込みなのに統合しなければならぬなら2038年全市一斉にできないのか。</p>	<p>西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）では、西脇東中学校はすでに1学年1学級となっていることや、黒田庄中学校が令和13年度に1学年1学級になると予想されることから早期にその解消を目指すため令和8年度の統合としていました。</p> <p>西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	<p>少子化により統廃合、小中一貫の流れは当然のことと思いますが、令和8年の黒田庄中学校と西脇東中学校の統合のタイミングに違和感を覚えます。</p> <p>説明会では黒中が東中に移動するとのことで、生徒数も黒中の方が多く上に東中にプレハブ校舎を建てての対応は、そこまでして急ぐ理由は何なのか不思議です。このままでは黒田庄の生徒たちが西脇市への不信感を抱くこととなります。</p>	<p>西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）では、西脇東中学校はすでに1学年1学級となっていることや、黒田庄中学校が令和13年度に1学年1学級になると予想されることから早期にその解消を目指すため令和8年度の統合としていました。</p> <p>西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。</p>

P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄町の説明会での説明において、統合には地域同士の連携が必要であると過去の学校統合せの状況を例に説明されていましたが、本当に大事なことと思います。それであればなおさら本計画（案）が出されるまでに地域同士の結びつきや連携の施策をなすべきでないか。比延地区と黒田庄地区で綱引きをするような説明をした後では、連携は困難であると思います。学校統合がスムーズにいくためにどのように連携をさせようかとされているのか。	1	西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会で再度協議を行う予定としています。また、今後とも丁寧に進めていきます。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	今更、両地区の連携を図ることなど絵空事と思います。両地区の連携が出来ることが一番だと言われていましたが、地域連携ができてこそ学校統合が出来るかと本気で考え、どのように本気で取り組もうと考えておられるのか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	子どもが少なくなるし、部活動が1つの学校で成り立たない状況は、理解出来ますし、合併は仕方がないとおもいます。しかし、西脇東中学校と黒田庄中学校の合併に関して、なぜ人数の多い黒田庄中学校が西脇東中学校に行かなければいけないのか理解出来ません。その先、西脇中学校とも合併させるのであれば、3校合併を前倒しして、早く新しい中学校建設をして、同時に3校を合併させるべきです。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校を廃校とする理由について様々な点を挙げられ、結局教育委員会としては「総合的に判断した」とされていますが、市長の意向が反映された結果と思われる。教育長は、説明会のなかで「黒中廃校に関し市長と意見の相違があったが、まちの将来を考えた。再検討する時間が必要である。地域連携が重要である。」という主旨の話をされました。そこで、「3年後の統廃合計画（8月決定）」は一旦白紙（先延ばし）にし、時間軸を置いて、比延と黒田庄の地域協議体にて統廃合に関する新たな検討を行う」ことを要請します。学校の統廃合は保護者のみならず地域・住民に大きな影響を及ぼす重要なテーマだけに、今後のスケジュールを明確にしたうえで、必要な情報は開示し、住民にわかりやすくかつ納得いくまで丁寧に説明し尽くすことが大事であると考えます。そうしないと教育行政への不信任や住民対立が表面化します。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	住民の意見を聞き、慎重に進めてほしい。今の時点で住民の理解は全く得られていない。納得できる点がない。最終中学校を2拠点にするのなら、3拠点をせずにそれまで現行でいって新設したら良いと思う。東中と黒中（他統合するところ、楠小と桜小など）が対立関係にならないように、慎重に検討すべき。親が対立してしまうと子どもにも影響が出ると思う。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校が令和8年をもって廃校になるのが納得がいきません。小人数のきめ細かい学校教育が望まなくなっていることには、あきらめるしかないと思いつつも、最後に教育長が述べられましたお言葉が胸に響きました。東中・黒中地域のコミュニティーを大切に考えながら再度検討してくださいと期待しております。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇市の学校適正化について、そもそも統合が必要なのかというところで、小中一貫教育にも疑問をもっていますし、西脇市の適正規模・適正配置にも疑問があるのですが、今回は黒田庄中学校と西脇東中学校の統合に限って、市の案に反対の意見を述べます。本当に統廃合が必要で、西脇東中に統合する納得できる理由があれば、ある程度仕方ないとも思いますが、今回は納得できる理由がひとつもありません。少なくとも黒田庄中学校と西脇東中学校の統合案は白紙に戻していただき、納得できる案を再度提出していただきたいと思ひます。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）について、東中に統合されるという案について、何一つ納得出来る理由がなかった。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	人口減少と少子化から、学校の統合や廃校になる日がいつかはくるだろうと漠然と感じていましたが、今回公表された計画案について納得いきません。結論から言いますと、現状では令和8年黒田庄中学校廃校、西脇東中学校に統合される案に納得がいきません。なぜ生徒数の多い黒田庄中が廃校になり、西脇東中へ通うことになるのか、説明会での理由では到底納得がいきませんでした。個人的には、規模の大きい黒田庄中への統合だろうと思います。しかし、どちらかに決まることで、どこかしこりが残るように思ひます。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	令和8年黒田庄中廃校、西脇東中統合案は白紙とし、令和20年に実施予定の中学校2拠点化時に開校される中学校に両校統合で良いのではないかと思います。この案を進めるのであれば強行するのではなく、西脇東中と黒田庄中の児童生徒やその保護者、また地域の住民の声を取り入れ、説明会や意見交換の場を幾度と設けて、もう少し時間をかけて、納得のいく統合の進め方をしていただきたいと思ひます。子どもたちのことを一番考えた計画を進めていただきたいと切に願ひます。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	私は黒田庄中学校が廃校になって、西脇東中学校に統合されることに反対です。今回の計画に関して決定をした理由について、納得のいく説明をお願いするとともに、白紙撤回を求めます。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校廃校案に反対です。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校と東中学校統合案に納得できません。統合が反対な訳ではないのですが、納得できる答え・説明をしていただきたい。もっと住民、本当にそこに通う子どもたちのことを考え納得いく説明、案を出してもらうことを願ひています。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	私は黒田庄中学校が廃校になるのは反対です。今も大切にしている友達と出会えたのは黒田庄中学校があったからです。廃校になると、その子どもたちの思い出は消えることはありませんが、とても寂しいです。他の学校に比べると人数は少ないですが、私にとっては自慢の学校です。今は黒田庄から離れてますが実家に帰ったら黒田庄中学校でお世話になった先生方や同級生の子たちと話したりしたりします。私だけではなく、みんなにとっても黒田庄中学校は何か挑戦したり、一息休んだりするために大切な場所です。黒田庄中学校が、あるから地元に戻る楽しみがあります。だからこそ、廃校する案に反対します。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒中と東中の統合は白紙にするべき。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇東中に統合され子どもを黒田庄から通わせるのに反対します。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中から西脇東中への統合案に反対します。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	生徒数の多い学校（黒田庄中）が生徒数の少ないほうの学校（西脇東中）に統合されるのは、不自然です。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	統合時の人数が圧倒的に多い黒田庄が西脇東に行くのは何故か。	1	

P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	何故、生徒数が多い黒田庄中学校が生徒数の少ない西脇市東中学校に統合され、黒田庄中学校が廃校に決まったのか。	1	西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会と再度協議を行う予定としています。また、今後とも丁寧に進めていきます。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	何故（2022）東中生徒数86人と黒中生徒数152人との統合校が東中なのか。子どもたちの人口重心地により近い東中を活用するという資料は適切ではなかったと後から補足されたそうだが、間違った資料で説明会を開催しているのでは今までの統合計画は無効で再度説明会を開くのか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	統合時の人数が圧倒的に多い黒田庄が西脇東に行くのは何故でしょうか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	率直な意見、計画（案）は疑問だらけでした。なぜ大勢の方が動くのか、なぜ入りきらないのに東中になるのか。黒中ではなぜ駄目なのか、すっきりしないままでした。もう一度考えてください。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校がなくなるのは反対です。西脇東中学校に統合される計画のようですが、黒田庄中学校の方が生徒数が倍近いのに、なぜ統合されようとしているのか建物の耐用年数が理由ではないでしょうか。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇東中と黒田庄中の統合について、なぜ生徒数の多い黒田庄中が廃校となり、西脇東中に統合されるのかその合理的な理由が全く理解できないこと。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	教室数も少ない東中への統合は仮設を建ててまでどうして必要なのか。	1	少人数教室で授業を行う際に教室数が不足するため、軽量鉄骨造の増設校舎を想定しています。西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会と再度協議を行う予定としています。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	（案）の中に、本市の将来を見据え教育の受益者である児童生徒にとって最適な学習構築をすることを最優先に考え策定するものとありますが、その最たるものが生徒が増えるからプレハブ教室ですか？	1	増設する校舎は、軽量鉄骨造の校舎を予定しており、強度、騒音等、生徒たちの学習環境に十分対応できるものを想定しています。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	東中でプレハブ校舎を建てるのは反対。楠丘小出身の同世代は、建て替えの時に2年間プレハブ校舎を経験しています。当時の物と今の物は比べものにならないかもしれませんが、少なくともそこで不便な思いをしたのは確かです。今のプレハブがどれだけ良いかは知りませんが、所詮はプレハブであって、子どもの学習環境を考えているとは到底思えない。	1	増設する校舎は、軽量鉄骨造の校舎を予定しており、強度、騒音等、生徒たちの学習環境に十分対応できるものを想定しています。西脇東中学校と黒田庄中学校との再編については、今後、比延地区・黒田庄地区の保護者・住民で構成する統合懇談会（仮称）等の意見を参考に、教育委員会と再度協議を行う予定としています。
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄中学校が老朽化したといっても、12年間プレハブ校舎の悪状況を受け入れる理由にはなりません。元教員として、プレハブ校舎がいかにかに生徒の集中力をそく環境か（中学校では校内が荒れました。）を強く訴えたいと思います。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒中の方が、校舎のキャパ・子どもの人数いづれに於いても東中より優れているように思います。私は仮設校舎の学校に、わざわざ登下校10km以上かけて子どもを通わせたくありませんし、人数の少ない地域の学校へわざわざ10km以上かけて子どもを通わせたくありません。子どもたちの学習環境を第一優先に考えているのであれば、東中の仮設校舎建設ではなく、黒中の本校舎の修繕ではないでしょうか？仮設校舎の耐震性は？地震や台風が来た時、生徒たちは大丈夫ですか？	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	学校統合に甲乙付け難く、またいるんな意見があるのは分かります。そういう時に公平で納得のいく判断基準は、やはり生徒数や学校のキャパなどではないでしょうか？それを覆してまで、東中案を押し通す理由は何なのか？東中校舎を使う納得のできる理由を教えてください。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	P23規模が大きな黒田庄中を東中に統合する計画について教室が足りないため、プレハブ校舎を設置するという話が出ているというのは本当ですか？令和8年から令和19年まで、プレハブで授業を受けるというのはいかがなものだと思います。また、プレハブ校舎の必要性和使用しなくなった場合の用途など検討されていますか？プレハブといえど費用もかかりますし、財政的な側面からしても問題があるように思います。適正化検討委員会において、いずれの中学校に統合する場合であっても、混乱が起きないように住民に丁寧な説明が求められるといった議事録も残っていますので、今一度住民に丁寧な説明を求めます。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇東中よりも黒田庄中地区の方が人数が多いので、西脇東中にプレハブを建てるのは違うと思う。夏の暑い時期、冬の寒い時期に子どもたちが適切に勉強できる場所を提供してあげることが責務だと思います。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	東中に統合になると不足分の教室がプレハブだということにも納得がいきません。黒中であれば市内中学校2拠点計画の令和20年までは使用可能です。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	仮設校舎を作ってまで東中学校に統合する根拠と説明が不十分です。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	西脇東中では校舎が足りず、プレハブ校舎を建てることなのですが、そこで子どもたちを学習されることには反対です。小さい学校に統合するからこういうことが起こります。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	黒田庄から西脇東中へ通うことに反対です。通学路の問題も、不足分の教室がしばらくプレハブだということも、計画案の説明と聞いていたのに、すでに東中で決定していることも、市長と教育委員会の方に裏切られた気持ちでいっぱいです。なにより、黒田庄中学校が無くなってしまふことが残念です。	1	
P23	第6章 西脇東中学校、黒田庄中学校の統合	納得がいかないのは、十分な教室数がある黒田庄から、なぜ12年間の間、プレハブ対応の校舎へ通うのかということだと思います。	1	

P24	第6章 西脇中学校区内の小学校(西脇小学校、日野小学校)の統合	P24 小学校の統合(西小・日野小) 小学校の統合の基準である「複式学級編制」が生じないことという基準からすると人口推計の推移を見てみると、日野小学校は統合の対象になりませんが、計画案では、令和20年度から統合される計画となっています。統合される理由を教えてくださいませんか? 複式学級とならない規模が適正であるなら、日野小学校は、適正規模であると思います。	1	日野小学校と西脇小学校の統合は、令和20年度となっていますが、今後の社会情勢の変化を踏まえつつ、令和15年度までに設置される「調査検討会議」において検討することとなっています。
P24	第6章 西脇中学校区内の小学校(西脇小学校、日野小学校)の統合	この計画(案)に反対します。 日野地域に小学校がなくなることは、学校がない地域に居住する若い人達が減り、日野地域が縮小すると思います。	1	
P27	第6章 黒田庄中学校区内の小学校(楠丘小学校、桜丘小学校)の統合	楠丘小学校・桜丘小学校の統合について、充分な根拠がないように思います。 本来、桜丘小学校では、令和12年度から複式学級になるのか。 また、それまでに移住環境を整え、少しでも移住者を確保しこれらの事態を避ける行政の姿勢が全く見えません。	1	桜丘小学校では、令和10年度の新入生が6名、令和11年度が7名と見込まれており、令和12年度になったときに、2・3年生で13名となるため複式学級となる可能性があります。 そのため、令和10年の新入生は3年生～6年生、令和11年度の新入生は2年生～5年生まで複式学級で生活することになります。 移住等の政策に関しては、市長部局ともご意見を共有させていただきます。
P28	第6章 中学校区2拠点化への準備	2038年中学校区2拠点化・何故南中と統合校なのか?西脇市全土で考えられているのか?	1	西脇市全体としての西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画(案)となります。令和15年度までに調査検討会議を設置し、学習環境規模適正化の推進効果を調査・検討し、中学校区2拠点化に向けた協議を開始する予定としています。
P32	第7章 小中学校の廃校舎等の利活用	小中学校の廃校舎の利活用について 利活用、処分等の方向付けとありますが、どのみち黒田庄地区に学校がなくなるならば、費用がかかっても再利用していただきたいと考えています。今も一つ問題になっているのがJR加古川線(西脇市から谷川区間)の存続問題です。数年後にはもう廃線にされてしまう可能性があります。黒田庄中学校を例えば市民の総合運動施設にしたり毎日だけでなくもよいので西脇市の給食が食べられる食堂に変えていただければいいと思っています。誰が運営するのか誰がやるのか、難しいですが黒田庄中学校の場所はJR黒田駅に近く、JR乗車促進に繋がればいいなと思いました。	1	廃校となる学校施設については、重要な社会資本であることから、小中学校廃校舎施設等の利活用に関する基本方針(仮称)を示し、当該地域に十分な情報提供を行うとともに、当該地域と十分に協議しながら、利活用・処分等の方向付けを行うことになると想定しています。
P22 P32	第5章 適正な通学条件 第7章 登下校時の配慮に関する取組	通学条件の慎重な検討継続と対策検討・実証実験の早期化 小学生片道4km、中学生6km以内が公的な補助の一つの目安として検討されている点について、大人でもその距離を徒歩ないし自転車で通勤するには大変な負担がかかるという認識の中、慎重に検証、検討を要請します。事務局の皆さんや最終的に意思決定する方々には、ぜひご自身も同じ条件にて長期間の通勤を実践したうえで検討をしていただきたいところです。大人ができないことを子どもに押し付けることはいかなるものでしょうか。 通学に要する時間が長時間・長距離になった場合、子どもたちへの負担が学習面でのマイナスに影響すること、保護者が送迎や届け物をする場合や当該校の教職員の方々にも負担が生じることが想定され、本計画の目的達成の妨げとなる可能性があります。 適正距離を超える場合は公的な補助を検討されるということについては、具体案の検討・実施が必要条件となる点も織り込む必要があります。 通学条件の設定は計画の前提となる児童・生徒数の見通しに影響する可能性が非常に高く、公共交通機関などの通学手段の検討と実証実験などの検証は計画確定段階から重点課題として実施計画に反映することを要請します。	1	通学については、原則として統合により通学する学校が変わる児童生徒を対象に、通学時間及び通学距離が適正範囲となるよう支援していきます。 また、通学時間及び通学距離の基準の適用に当たっては、各校区の実情等を把握するとともに、開校準備会議と協議等を行い、全体的なバランスを考慮しながら弾力的な運用を図ることを想定しています。 通学支援について、公共交通機関を利用して通学する児童生徒に対しては、その経済的な負担の軽減を図る、若しくは、スクールバスによる遠距離通学の支援を図り、児童生徒が円滑に義務教育を受けられるように努め、その詳細についても、開校準備会議で協議等を行い、最終的には教育委員会で決定していきたいと考えています。
P22 P32	第5章 適正な通学条件 第7章 登下校時の配慮に関する取組	文科省手引から部分的な数字だけを抜き出して小学生の徒歩4kmを設定することは不適切ではないでしょうか。 ○児童生徒の実態や地域の実情を踏まえた場合、西脇市では「通学時間はおおむね1時間以内」が必須条件として定義されるべきではないでしょうか。 ○徒歩で1時間以上かかる、すなわち通学サポートが必要になる見込みの児童が、統合により何名程度発生し、それは統合後の小学校で何割程度を占めるか年齢と居住地から割り出し可能と思われます。集計し検討材料に含めるべきではないでしょうか。 ○遠方から通わざるを得ない児童に対して、どのようなサポートを行う想定をお教えください。 ○同市内での通学時間の差による格差が生じることは確定的かと思いますが、どう是正する想定をお教えください。	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	JRの廃線を阻止するために学生を使わないでいただきたい。スクールバスを導入するなどして、安全に登下校ができる状況をもう少し真剣に考えていただきたい。	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	通学路の問題です。JR利用という未体験の計画です。春夏秋冬、体調不良の時、不登校など、部活どころではない不安がつるばかりです。	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	通学が遠距離、長時間になれば疲労で学習に集中できなくなる恐れがあるほか、子どもたちの遊びや活動が制約されるなど様々な弊害があります。	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	学校教育の大変さは感じております。少子化とはいえ自転車通学をしている高校生も年々減少し、見かけなくなりました。黒田庄の高校生は、JR駅近でもほとんど家族が車で送迎していると聞いています。 そうすると、親でなくとも統合により中学生、特に1年生の通学路の安全が心配です。JRで自転車と一緒に通学する案が出ていますが、朝はともかく、中学生が帰りにJR時間まで待って帰宅するとは思えません。当時と今の交通量とは全く違います。学校の中のこと、先生たちの努力や取り組みで頑張っていたいただけたと思いますが、大人(公務員・教師)も使わない中学生中心のJRの車内の安全、車しか通らない通学路は、どちらの中学校を使うにしても、今の場所では通学時間が長くなり受験勉強にも影響し、結局親の送迎になると思います。安全策はどうなっていますか。	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	サイクルトレインといいますが、車両の数は増えるのでしょうか?生徒の登下校の時間は様々なことになると思いますが、ダイヤは増えるのでしょうか?費用は個人負担ですか?安全面は?多数の生徒が一度に電車に乗っても本当に大丈夫なのでしょうか?	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	スクールバスとはどのようなものですか?ダイヤは?費用は?小苗みたいな小さい村まで迎えに来てくれるのでしょうか?東中近辺の細い道路での走行は危険じゃありませんか?安全面は担保できていますか?また説明会で距離の遠い地域の生徒はサポートすると仰っていましたが、どんなサポートでしょうか?	1	
P32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	現在子育て中の親の多くの黒中東中統合に関する論点は、子どもらの教育環境(校舎も含めて)、内容、通学方法です。JRの使用も視野に入っているようですが、加古川線(西脇市⇄谷川)の存続のための手段に「中学生の通学」を使わないで欲しいです。 また、自転車での遠方からの通学は、交通事故や性犯罪の被害者になる心配もしています。	1	
p32	第7章 登下校時の配慮に関する取組	子どもたちにとって最適な通学路、環境を一番考えるべきです。	1	

(5) その他 (29件)

ページ	項目等	意見等の概要	件数	意見等への考え方
P19	第4章 教育施設の整備	黒田庄中学校の体育館の雨漏り等がひどいことについて、防災の拠点であるためすぐにも修繕、もしくは建替えすべきであること。	1	黒田庄中学校体育館の雨漏りの修繕については、他の学校の修繕も含め、実施しています。
P19	第4章 教育施設の整備	黒田庄中学校は体育館が地域の避難所になっていますが、雨漏りするようです。それも何年も前から。そんな場所を避難所に指定していることも疑問ですが、避難所指定しながら修理していないのは何故でしょうか。中学校も小学校同様に、黒田庄町の地域の宝です。 生徒数が少なくても、大切に運営されている小・中学校は他府県にたくさんあります。予算がないからといって教育費用を削るのは止めていただきたい。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	黒中の体育館の雨漏りの修繕は、統廃合に関係なく速やかに取り組んでください。雨水が床に溜まりボールが濡れる状況で運動させるなんて、信じられません。市のお金の使い方に疑問を感じます。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	今回の理由の一つにある黒田庄中学校の体育館の雨漏りですが、これを理由にしていること事態立派だしいです。何年前に補修工事をされましたが、中途半端にしているからかヒドイ雨漏りがしています。西脇小学校の木造校舎の補強に何億のお金をつぎ込むなら黒中の体育館の雨漏り今すぐにも直すべきです。 さらに黒田庄中学校の体育館は黒田庄住民の避難場所となっています。黒田庄住民の安全より文化遺産の方が大切なのでしょうか。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	黒田庄中学校の屋内運動場の雨漏りはずっと前からで、補修工事後も雨漏りが続いています。雨の降った日は使うコートが濡れるので雑巾で拭いています。大人でも滑って転ぶことがあります。生徒の安全、学習活動の保証を怠っています。早急に修理すべきです。黒中体育館は私たちの避難場所でもあります。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	補足説明で追加された体育館の雨漏りですが、統廃合に関係なく学校施設の問題として早急に対処すべきことであり、この文言を加えることは本計画にふさわしくなく、たとえ統廃合に黒田庄中学校が活用されなくとも修繕するべき事案（統廃合とは別の予算で）と思います。（防災の観点からも、体育館は指定避難所になっているとのことで、これまでは避難される方が少なく雨漏りのない武道館で対応できていたかもしれませんが、もし大きな災害（例えば台風などで大雨）が発生して多数の避難者があった場合のことも踏まえる必要があると思います。）	1	
P19	第4章 教育施設の整備	体育館の雨漏りも指摘があったように特殊な作りとはいえ、なんとかしてやらないという気持ちが伝わってきませんでした。 父兄としても悲しく、大人としても不甲斐ない情けない思いです。 部活中に怪我した場合、雨漏りは大きな原因となると思います。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	黒田庄中学校の体育館雨漏り問題について 現在の避難場所は、武道場ではなく体育館です。避難場所に指定している場所が酷い雨漏りをしている事に於いても問題かと思われず。また、現在その状態で学んでいる生徒と現場に対しても直ちに修繕の義務が生じると思われます。継ぎ工事ではなく、根本的修繕を求めます。 実際、体育館を視察に行きましたが、危険さを感じる場所もありました。早急に対応頂けると嘆願致します。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	黒田庄の北部地区の災害時避難場所として黒田庄中学校の武道場が指定され、廃校の理由の一つとして体育館は雨漏りがひどく損傷が激しいと聞いています。そんなことはこじつけで理由になりません。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	東中との統廃合の理由において、黒田庄中学校の体育館の雨漏りが酷いこともあげられておりましたが、全然把握してなかったのでビックリしました。 もし、大事な式典や行事を行っている時に大雨となった場合、タライやバケツで雨漏り対策するのか。 前坂にある黒田庄の体育館も本当に古いです。 この際、黒田庄中学校の体育館を新しくして、将来、黒田庄中学校が廃校になったとしても避難所や、色々な活動の拠点として活用するというのもありではないかと考えました。避難所が体育館ではなく武道館というのはあり得ないです。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	今の子どもの学習環境の迅速な対応 検討会議において2年に渡って議論したことによるデメリットも発生していると認識しています。既存の小中学校の設備の経年劣化、老朽化対策が遅れているという点です。本計画が決定した際の効率的な予算執行を徹底されていることも理解はしますが、目の前の今の子ども達の安心安全に関わる設備面の修繕・改善は喫緊の課題であります。 各設備の長寿命化の施策実施とは別に廃校対象の設備も、長期にわたり教育現場で諦めて潜在化してしまっている問題個所の洗い出しを含め、早急な対応の実施を強く要請します。	1	西脇市内の小中学校について、可能な修繕については緊急性のあるものから順次計画的に進めています。
P19	第4章 教育施設の整備	「規模適正に伴い、拠点校に必要な施設設備の新築・改築・改修を行う」とあるが、拠点にならない学校の施設設備はこれまで以上に捨て置かれたままなのか。設備の修理を依頼しても「予算が組まれていないから不可」の一辺倒である。今在学中の児童生徒を見捨てる施策が市政の正しい在り方ではないはずである。「子どもたちにとってより良い学習環境を整備する」という目的が理解できるよう、現存する西脇市の全ての学校において、どの学校のどの施設設備をどのように整えていくのか、各校への予算額も含めた計画を明示していただきたい。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	統合する、建て替えるからといって、見過ごさず今の学習環境を良くしてほしい。例えば、重春小のトイレ問題や黒中の体育館の雨漏り。 新設するならば規模にあったトイレの数を確保してほしい。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	全国的に学校の統廃合が進んでいますがその背景に国の教育予算の削減があります。統廃合の適否を「速やかに検討する必要がある」としているが西脇市は統廃合を一時的に押し付けないで欲しい。学校施設整備の予算を増額し、補助率と補助単価を引き上げなど校舎、施設の老朽化対策を抜本的にしていける必要があります。	1	
P19	第4章 教育施設の整備	【学校教育環境の改善がもっと必要なところ】 黒中の施設の悪さは今にはじまったことではないと思います。統合問題もあり、放置していたと受け取られても仕方がないかなと思います。 重小が築50年を超えていることで、建て替えが計画されていたのに、同じように施設が老朽化している黒中を修繕しないのはなぜなのでしょう。昨今の統合の問題とは関係なく、黒中の修繕計画が昔からあってしかるべきではないかと思いましたが。黒中の修繕計画もすでに存在していたなら、旧西脇市の教育施設ばかりが新しくなっていくような気がします。 学校の規模に関係なく「子どもには良い環境で教育を受けさせたい」そう思うのは、どこに住んでいようと保護者なら当たり前の感情だと思います。市内、どこの地域に住んでも、最適な学校環境であってほしいと思います。 「子ども」である時代に、素晴らしい教育を与えてもらったなら、きっと西脇市で住みたいと思ってくれると思います。そう思ってくれなくても、ゆくゆくこの国を支えてくれるのは子どもたちです。未来の「大人」の方へ、今の大人がもっと投資してあげてほしいです。	1	

-	第6章 小中学校統合計画	この機会に、ぜひ、黒田庄中学校を小中一貫校として新設して頂きたいです。 少子化・高齢化にともなって、後々、デイサービス、老人ホーム等に再利用できるような、未来ある建物として新設を希望します。	1	ご意見承りました。
-	-	黒田庄中のグラウンドは冬場早く日が暮れるのでクラブ活動に支障があるという件は、冬場はそもそも下校時間が早いので理由になりません。 以上のような理由にならない理由が多いことは、最初に結論ありきと思わざるを得ません。	1	日照時間については、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画（案）には記載していません。
-	-	黒中出身ですが、日照時間が短くて不便を感じたことはない。	1	
-	-	冬季の日照時間が黒中は2時間半短いので東中の方が良いと言われていますが、冬季の下校時間は市内4中学校全て16時30分と同じであり、日照時間が短い事で問題はなく、こじつけでしかないように感じることに。	1	
-	-	今回の説明会に桜丘小学校が入っていないのは何故ですか？東中案で強行する予定であったのなら、一番影響の受ける桜丘地区の住民に、一番配慮し、一番早くに説明しに来ないといけなかったのではないのでしょうか？遠いからですか？面倒だからですか？反対意見が一番多いと思ったからですか？理由はなんですか？強行突破や説明不足含め、今回の西脇市さん及び教育委員会さんの一連の行動すべてに、私は疑心と不満と不安を持っています。補丘の説明会でも同意見が出ていましたので、桜丘小学校での説明会も必ず実施してください。	1	各地区での説明会のほかに、桜丘小学校と双葉小学校で説明会を開催しました。また、9月にはこども園等においても懇談会を開催しました。
-	-	何故小学校区毎に説明会を開催しないのか。双葉小学校区と桜丘小学校区のみ説明会を何故しないのか。こども園の保護者に関係資料・説明があったのか。	1	
-	-	説明会の開催日程が出るのが遅い。 説明会は最低各小学校ごとに開かれるべき。	1	
-	-	2023年6月4日に、補丘小学校にて、住民を対象とした説明が行われましたが、桜丘小学校での説明はないうまとなっています。 黒田庄地域も西脇市です。地域住民が少ない地区はおきざりですか？これまで様々な多目的施設等が建てられていますが、ミライエの建設場所からは黒田庄地域はとてと遠く、色々な事が黒田庄地域が軽視されている感じがします。	1	
-	-	学校施設を使用して教委の皆さんがおられるところで公然と署名集めの活動が行われていました。無許可だと思いますが、教委の施設管理、危機管理はどうなっていますか。	1	説明会が混乱している中であったとはいえ、注意喚起すべき事案であったと認識しており、今後は適切に対応していきます。
-	-	人口を増やすためには、もっと子育てしやすいまちづくりにするべき。思い切った政策をするべき。給食無償化などは当たり前前で、そのほか就学援助ももっと使いやすくする。もしくはすべての子どもに使えるようにしてほしい。	1	ご意見承りました。 市長部局ともご意見を共有させていただきます。
-	-	ICT授業が全国的にも桜丘小学校は高評価となっているようですが、いまだに光ネットワーク環境が整っていない地域をどのように考えておられますか。JRが通っているから光ネットワーク環境を導入できないと言う返答のまま、JRにもかけあってもらえず、サイクルトレインに対しては働きかけをされており、少数の市民の声は全く聞き入れてもらえないのですか。学習環境規模適正化推進計画からはそれとありますが、光ネットワークが導入されていない地域の者の意見として言わせていただきました。	1	
-	-	小苗のJR加古川線よりも山側地域は、現在光ファイバーが通っていません。何年前に議会で、小苗の山間地域に光ファイバーを通して欲しい旨の議論をされてきました。 「ICT教育」を掲げるのであれば、小苗の、そして実際教育を受ける生徒のネットインフラを整えてから主張してください。私の子どもは市長推薦のICT教育が受けられません。どうかしてください。	1	
-	-	子どもたちが「日野に住んでよかった」と言える農業などにかかわる産業など、産業を興す研究をして下さい。	1	
-	-	また、制服の案ですが、リボンやネクタイは無いのでしょうか、首元が寂しく可愛らしさが無いなぁと感じました。	1	ご意見承りました。